

委員名 *	行番号 (e.g. 17)	簡条/ 細分簡条 * (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
国際 標準 課- 001	158	0.1		ed	<p>“組織には、自らが依存する外部組織が あり、また、<u>自らの組織に依存している他の組織の可能性もある。</u>” について。</p> <p>原文は、</p> <p>An organization is likely to have external organizations that it depends upon and <u>there will be others that depend on it.</u></p> <p>特に下線部の訳として、少し分かりづらいのではないのでしょうか。例えば、右記のような修正案ではいかがでしょうか。</p>	<p>“組織には、自らが依存する外部組織が あり、また、自らの組織に依存している他の組織<u>がある</u>可能性もある。”</p>	<p>コメントありがとうございます。</p> <p>修正いたします。</p>
勝俣- 002	207 209	0.3	タイトル 2行目	ed	<p>原文の「Plan-Do-Check-Act」を「計画-実施-チェック-処理」と和訳していますが、既に JIS 化している、例えば、9001 では次のとおりである。</p> <p>9001 0.1 一般 16行目</p> <p>Plan-Do-Check-Act(PDCA)サイクル</p>	<p>既に発行している規格に合わせて Plan-Do-Check-Act(PDCA)サイクルとする。</p>	<p>コメントありがとうございます。</p> <p>修正いたします。</p>
石川- 003	562	6.2.2	注記	ge	<p>注記内の「この文書」、「括弧内」などが何を指しているか不明確である(注記の位置が不適切なのかもしれない)。</p>		<p>コメントありがとうございます。</p> <p>JIS の様式では、この注記は、すぐ上の簡条書き (JIS では細別) を指します。ただし、分かり難いというご指摘であり、これは多くの</p>

1 MB = Member body / NC = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)

2 Type of comment: ge = general te = technical ed = editorial

委員名 *	行番号 (e.g. 17)	簡条/ 細分簡条 * (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
							規格ユーザーも同様と考 え、次のように修正いたし ます。 “注記 この細別は具体 的な例を示したものであ り、それぞれの引用符号 （”）の中には具体的な製 品及びサービスの名称、並 びに具体的な達成期日を明 記する。”
国際 標準 課- 004	723	7.5.1	第 4 段落	ed	「事業継続戦略及び事業継続具体策（8.3 参照）」 となっていますが、参照先の 8.3 では「事業継続 戦略及び具体策」となっており、英語も同様なの で、下線部を取って合わせるべきではないでしょ うか。 なお、図 5 なども「事業継続戦略及び具体策」と なっています。	「事業継続戦略及び具体策（8.3 参照）」に修正す る。	コメントありがとうございます。 JIS では、原文では solution となっているところは、前 後の文脈などから「事業 継続具体策」としている ところがあります。この多く は、原文で“Business continuity strategy and plan”となっております。 （方針、手順なども同 様）。 ただし、今回のご指摘を受 けて、他の箇所との整合な どを考えて、原文に沿った 訳とするよう変更修正をい たします。 これを踏まえて、本コメン トをいただいた箇所につい

1 MB = Member body / NC = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)

2 Type of comment: ge = general te = technical ed = editorial

委員名 *	行番号 (e.g. 17)	簡条/ 細分簡条 * (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
							ては、原文は“Business continuity strategy and solutions”のところは、“事業継続戦略及び具体策”と修正いたします。ほかの箇所についても英文に沿って訳を変更します。
勝俣-005	862 874 877 880 898 904 913 1375			ed	「事業影響度の分析」は JIS 規格としては「事業影響度分析」と定義された用語を使用する方が良いと考える。	「事業影響度の分析」を「事業影響度分析」とする。	コメントありがとうございます。 原文では下記のように二通りの表現があり、それに沿った訳を採用していますので、そのままとさせていただきます。 ● ISO 22313 では、“Business impact analysis”と“Analysis of business impact”の二つの表現があります。JIS 化に際しては、原文に即して訳し分けることとしており、次のようにしています。 ➤ “Business impact analysis”は、“事業影響度分析”。 “Analysis of business impact”は、“事業影響度の分析”としています。

1 MB = Member body / NC = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)

2 Type of comment: ge = general te = technical ed = editorial

委員名 *	行番号 (e.g. 17)	簡条/ 細分簡条 * (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
							リスクアセスメントも同様に、ISO 22313 では“risk assessment”と“assessment of risk”があり、それぞれ、“リスクアセスメント”と“リスクのアセスメント”としています。
国際標準課-006	873~874	8.2.1	第2段落	ed	「事業継続戦略及び事業継続具体策（8.3 参照）」となっていますが、参照先の 8.3 では「事業継続戦略及び具体策」となっており、英語も同様なので、下線部を取って合わせるべきではないでしょうか。 なお、図 5 なども「事業継続戦略及び具体策」となっています。	「事業継続戦略及び具体策（8.3 参照）」に修正する。	コメントありがとうございます。 004 をご参照ください。
勝俣-007	922	8.2.2		ed	「数秒~数箇月」の“箇”は標準的表記にした方が良い。	「箇」を「か」とする。	コメントありがとうございます。 『JIS 原案作成のための手引【第 19 版】<JIS Z 8301:2019 対応>』において、具体的な数字（例えば、1 か月、2 か月）のような場合には「か」を使用し、具体的な数値がない場

1 **MB** = Member body / **NC** = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)

2 **Type of comment:** **ge** = general **te** = technical **ed** = editorial

委員名 *	行番号 (e.g. 17)	箇条/ 細分箇条 * (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
							合には、「箇」を使用することになっております。 修正せず、現状維持とさせていただきます。
勝俣- 008	1120	8.3.2.4	3 行目	ed	「保険適用外の危険」の“危険”の表記は一般的ではないと考える。	原文が不明なため、修正案を提示できませんが再確認をお願いしたい。	コメントありがとうございます。 原文は、“insured peril”となります。保険が利用できないもの、保険として販売されていないもの、すなわち、保険の適用外又は保険がつけられないものを指します。 複数の候補がありましたが、「保険適用外の危険」が相応しいとしてこの訳を当てています。 「保険適用外の危険」に関しては解説で説明を加えたいと思います。

1 **MB** = Member body / **NC** = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)
 2 **Type of comment:** **ge** = general **te** = technical **ed** = editorial

委員名 *	行番号 (e.g. 17)	簡条/ 細分簡条 * (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
国際 標準 課- 010	1528	8.4.4.2.1	第2段落	ed	<p>「事業継続戦略及び事業継続具体策（8.3.3 参照）」となっています。8.3.3 自体は「戦略及び具体策」という表現になっており、英文上も「business continuity」の有無で差があるので、このままでもよいでしょうが、上述の 8.3 タイトルとの関係では「事業継続戦略及び具体策(8.3.3 参照)」とした方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>なお、本修正を行う場合には文書全般的に「具体策」とする場合と「事業継続具体策」のバラツキが見られますので、併せて見直していただいた方がよいかと思えます。</p>	「事業継続戦略及び具体策（8.3.3 参照）」に修正する。	<p>（009 と 010 は行番号順に並び替えました。）</p> <p>コメントありがとうございます。</p> <p>004 をご参照ください。</p>
勝俣- 009	1600	8.4..3.3	タイトル	ed	<p>「使用性」となっているが文書化した情報に対しては「可用性」の方が要求事項の意図を表現した表記と考える。</p>	「使用性」を「可用性」とする。	<p>（009 と 010 は行番号順に並び替えました。）</p> <p>コメントありがとうございます。</p> <p>該当する英語は、usability であり、この用語は次のタイトル 2 か所のみで使用されています。(8.4.4.3 Content and usability、8.4.4.3 Usability)。</p> <p>すでに、“可用性”は別の英語の訳で使用しています。</p> <p>本規格において、情報セキュリティに関する事項に用いられている availability の訳を ISO/IEC 27000 シリーズで対応 JIS に用いられている “可用性”としている (8.2.2 及び 8.3.4.3)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 可用性の意図 ➤ ここでの可用性は、システムが継続して稼働できる能力という意味で情報関係分野で使用

1 MB = Member body / NC = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)

2 Type of comment: ge = general te = technical ed = editorial

委員名 *	行番号 (e.g. 17)	簡条/ 細分簡条 * (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
							<p>されている用語でして、それを踏襲してこの規格でも使用しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 8.4.4.3.3 の本文には usable が使用され、ISO 9004/JIS Q 9004 では usable を “使用に適した” と訳しています。本規格では “使用可能な” としています。 <p>以上から、タイトルは “使用性” のままとしたいと思います。</p>
国際標準課-011	1836	8.5.3	表 6	ed	<p>“カテゴリ” 欄の、“議論”、“シミュレーション” について。</p> <p>原文 (の Table6) では、Discussion と Simulation の記載位置にも意味があるのではないかと考えられるため。“議論”、“シミュレーション” も同じ位置に揃えた方がよろしいのではないのでしょうか。</p>	左記、コメントのとおり、“議論” “シミュレーション” の記載位置を原文に合わせる。	<p>コメントありがとうございます。</p> <p>修正いたします。</p>
国際標準課-012	1836	8.5.3	表 6	ed	<p>方法欄の上から、5 番目、「ワークショップ (単一又は複数の場所)」の説明 “この演習の目的は、異なる場所にいるチームが協力及び意思決定をすることである。” について。</p> <p>「異なる場所にいる」に、点線の下線があります。</p>	点線の削除。	<p>コメントありがとうございます。</p> <p>修正いたします。</p>

1 **MB** = Member body / **NC** = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)

2 **Type of comment:** **ge** = general **te** = technical **ed** = editorial

コメントテンプレート 【産業標準案への委員コメント及び対応結果】

日付:	規格番号: Q22313	プロジェクト:
-----	---------------------	---------

委員名 *	行番号 (e.g. 17)	簡条/ 細分簡条 * (e.g. 3.1)	段落/ 図/ 表/ (e.g. 表 1)	コメント タイプ*	コメント*	修正案	検討結果・対応案
					<p>原文は、“The purpose of the exercise is for <u>teams from different locations</u> to practise working together and making joint decisions.”</p> <p>既に原文から“異なる場所” という意味があるので、<u>ではない</u>でしょうか。その場合は、点線の下線は不要になります。</p>		

1 **MB** = Member body / **NC** = National Committee (enter the ISO 3166 two-letter country code, e.g. CN for China; comments from the ISO/CS editing unit are identified by **)
 2 **Type of comment:** **ge** = general **te** = technical **ed** = editorial

- 5 (METI) コメントシート_JIS 案_ISolutions 【Q22313】 .doc: Collation successful
- 5 (勝俣 宏行) コメントシート_JIS 案_ISolutions 【Q22313】 .doc: Collation successful
- 5 (石川) コメントシート_JIS 案_ISolutions 【Q22313】 .doc: Collation successful

Collation of files was successful. Number of collated files: 3

SELECTED (number of files): 3

PASSED TEST (number of files conformed to CCT table model): 3

FAILED TEST (number of files conformed to CCT table model): 0

CCT - Version 2020.1